

事業所名

てくてく親子教室

支援プログラム

作成日

2025

年

1

月

10

日

法人理念	一．顧客第一に、質の高い医療、介護、保育を提供します 一．すべてのサービスに、誇りと責任を持ちます 一．経営基盤を確立し、個人と組織の向上を目指します									
事業所理念	・一人ひとりのゆたかな育ちと安心した生活を願って、お子さんご家族の“これまで”を大切にし、“今とこれから”をともに考え、お子さんご家庭それぞれの幸せのカタチを見つけるお手伝いをします。 ・多様な発達の道筋の中の、親と子それぞれの歩みを大切にしながら、人と人との関わり合いの中で、子どもだちの育つ力を支える発達支援を提案します ・家庭のライフスタイルを尊重した家族支援、「地域で子どもを育てる」ために、他機関との協働を目指した地域支援に努めます。									
支援方針	・「ひとの発達は多様である」ということ、「子どもが権利の主体である」ということを大前提とします。 ・児童期だけではなく、思春期・青年期・成人期と続く将来を見据えながら、子どものviews（価値観・物事の捉え方など）を尊重し、子どもにとっての最善の利益を考えて支援にあたります。 ・個々の育ちのペース、発達の特徴といった「発達のねがい」を捉え、個々のニーズに合わせた関わりや環境調整を提案します。 ・「自分でわかった!」「自分で選んだ!」「自分で決めた!」「思いを伝えた」が、「自分で／人と一緒に」充実していくことを目指します。 ・物事の体制化（知覚・記憶・流動的な情報・社会的ルールなど、まとまりをもって、関連づけて捉えること）をはかるため、個々の発達の特徴や情報処理の方略に合わせて、視覚的手がかり（視覚支援）、構造化（空間・時間・ワークシステム）の手段を用います。 ・生活の中で有意義な変化や改善、集団参加や個々にふさわしい過ごし方につなげるために、個々の発達の特徴や段階に合わせて、機能的コミュニケーションスキルや生活動作のスキルの獲得を目指します。 ・生産的な学習経験が積み重ねられるように、人との相互的な関わりの中での情動調整（注意、覚醒状態、情動状態を調整するための自己調整及び相互調整の能力）の発達に焦点を当て、サポートします。 ・人との関わり合いのなかで、個々の特徴や願いに合わせた社会的理解の支援（例：自己理解・他者理解を支える、社会的ルールの明確化・明示等）をしていきます。									
営業時間	8	時	30	分から	17	時	15	分まで	送迎実施の有無	なし

		支 援 内 容
本人支援	健康・生活	・個々の興味、関心、楽しみを理解し、嬉しいことや楽しいことを通して人と繋がり、やってみたいという意欲につなげていきます。 ・情動調整（注意、覚醒状態、情動状態を調整するための自己調整及び相互調整の能力であり、学習の前提である学習可能性を支え、活動への能動的な学習基盤となる）の発達に焦点を当て、特に不快や不安、怒りといった気持ちを調整し、うまく回避したり元の活動に戻ったりする力を支えます。 ・規則的な生活習慣、見通しのある予測可能な活動の流れの中で、基本的な生活動作（例：準備、片付け、摂食、排泄など身の回りのこと）をスモールステップで獲得できるようにサポートします。
	運動・感覚	・まずは感覚の特徴を把握します。様々な感触の素材を用いた感触遊びや音を楽しめる遊びを通して、感覚の幅の広がりにつなげます。 ・落ち着かない状態からの立て直し／落ち着いて座位を保つ／注意集中を保つ／集団遊びに参加することを支えるために、それぞれの感覚に合わせた環境設定や環境調整を探ります。 ・固有感覚や前庭覚を刺激するような感覚運動遊び（遊具に合わせて、一人で、人と一緒にタイミングを合わせて）にとりくみます。 ・単体の遊具から、組み合わせた遊具へ設定を変えていき、環境に対して体を身構え合わせていく運動遊びを通して、感覚動作や協調運動の充実につなげます。 ・くぐる、とおる、かくれる、すれちがうなどの要素がある遊具設定や遊びを通して、空間認識やボディイメージの育ちを意識したとりくみをします。 ・微細運動や目と手の共応が充実するように、本人の興味関心に合わせて活動を設定します（例：のりやハサミ、粘土、折り紙、パズル、手先を使うおもちゃなど）。
	認知・行動	・見通しのある予測可能な活動の流れの中で、個々の情報処理の方略に合わせた手立て（例えば、全体像が分かるように同時に情報を提示する／順序だててひとつひとつ分かるように継続的に提示する／視覚的手がかりと聴覚的な合図を複合的に提示していき、本人の理解の段階に合わせて直接指示を減らしていく、等）によって、「自分でわかって」「自分で気づいて」、自発的な行動につながるようにサポートします。 ・予測可能な活動の流れの中で、それぞれの発達の段階や理解に合わせて、切り上げ方・切り替え方のレパートリーが増え、人と一緒に／自身で、行動を調整することを目指します。 ・活動を通して、物の機能や属性、形、色、大小、数（数唱・個数・基数・数量・数字など）、重さ、空間、時間等の概念の形成を図るため、個人の内的な発達の質を把握し、発達ニーズに合わせた関わりや遊び・活動の設定をします。
	言語 コミュニケーション	・共感、共有（共同注意）、といった相互交流をもとに、社会的コミュニケーションの土台を築くサポートをします。 ・前言語レベルから会話レベルまでの慣習的、象徴的システムに注目し、それぞれにとって意味のあるコミュニケーションの力をサポートします。 ・個々のコミュニケーションの力と手段を把握し、それぞれに応じて、補助代替コミュニケーションやコミュニケーション支援システムを用いることもあります。 ・要求、選択、交渉といった相互的なやりとりの機会を充実させ、自分を表す表現や相手に使うことばの力を育みます。 ・日常的で習慣的なやりとりを通して、語彙の広がり、ことばの意味の獲得、抽象概念化を支えます。また、数の力の土台となる知識を使った遊びを通して数の概念の獲得へと繋がります。

	人間関係 社会性	・ 共感、共有（共同注意）、といった相互交流をもとに、社会的コミュニケーションの土台を築くサポートをします。 ・ 遊びの発達段階（感覚運動遊び、おもちゃを介した単純遊び→組み合わせ遊び、フリ遊び、象徴遊び（見立てあそび、ごっこあそび）、ルールのある遊び（単純な流れのある遊び→簡単／複雑なルールのある遊び、勝敗のある遊び、共同遊び）を意識し、大人と／子どもと／子ども同士での相互交流を育みます。 ・ 順番／あそび／おやつ／時刻／時間／回数等を決めるという機会を通して、自己主張・他者の意見への気づき・相談・交渉といった相互交流を支えます。 ・ 気持ちを表すことばを知る、きもちの表現方法のレパートリーを増やす、相手の状況や意図を知ること为目标にして関わり、活動設定（例：あそびの振り返りをする事で、今の気持ちを相手に伝える、少し前のことを相手に伝える、お友だちの気持ちに気付く）をします。 ・ 社会的なルールや集団場面についての理解を支え、自分の思いに折り合いをつけながら、自分と状況とにふさわしい行動の選択や獲得につなげます。		
	家族支援	・ 保護者同伴での通所を基本としており、保護者グループでのファシリテーター（主に心理師）が相談援助を行います。 ・ 卒園児保護者も交えた懇談会（保護者学習会）を実施します。	移行支援	一般施策（保育所等）との併行利用を基本としており、通所により身に着けた力が、普段、子どもが生活する場面へ般化することを目指しています。 また、保育所等への訪問を実施し、生活場面での姿を踏まえて他の専門機関との協働に努めることや、次の生活の場への引継ぎを実施することで、スムーズな社会参加・インクルージョンを目指します。
	地域支援・地域連携	京都市および東部障害者地域自立支援協議会に参画し、障害福祉施策への提言、地域の課題をもとにした研修の企画・発案等を行っています。 行政機関、相談支援機関、学校・保育所等へアクセスし、ネットワークを築くことを目指し、その中で早期支援、協働に努めています。	職員の質の向上	年6回、法人内危機管理シミュレーション研修に参加 月1回、顧問によるOJT 年2回、外部講師によるOJT 年2回、外部専門機関の専門家（OT, ST等）によるOJT その他、随時、職員全員が各種研修を受講できる環境を保障しています
	主な行事等	グループ活動時に、季節に合わせた取り組みを行うこともあります 月に1回、音楽療法のグループを実施しています		